

1-2-1 地域内循環の推進と商工業の振興

3班

方針	対象	商工業者・工業系企業	
	意図	町内消費を拡大し、中心市街地活性化を図る産業連携による地域内経済循環を図る 企業誘致・支援による工業団地内企業数の維持・拡大を図る	
	結果	雇用・税収の確保、町内消費の増加	
指標	成果指標①	製造品出荷額	
	成果指標②	商品販売額	
	成果指標③	工業用地利用率（工業用地利用面積）	
	成果指標④	工業団地企業数	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	・製造品出荷額の金額は大きい、地域内循環ではないのではないか。 ・成果指標は前年比の方がよいのではないか。（注）	（成果指標案） ・地産地消額を出す。 ・芽室町地場の売り上げ。 （新たな視点） ・芽室町のお店でどれだけ地場産を使っているか調べられないか。 ・嵐山利用客みたいに調べられないか。
	②成果指標	意見なし	意見なし
	③成果指標	・必要なのか。成果指標④と一緒にではないのか。	意見なし
	④成果指標	・企業数は拡大を図るために設定しているのか。	（成果指標案） ・企業規模と納税額
	その他	・製造品出荷額が伸びているにも関わらず、商品販売額が低下している。 ・事業所への誘致はそのまま、誘致した企業の従業員が芽室町民になってもらう必要がある。	（成果指標案） ・芽室町ハローワーク、商工会求人応募と就職率 （新たな視点） ・コロナ等感染拡大でも影響がない成果指標にするべき ・芽室はハブ的に利便性が高いため、成果指標にしておくといよいのでは。
担当課との協議		成果指標を次のとおり追加予定→「町内でのお金の循環を意識している町民の割合」	

2-1-1 学校教育の充実

1班

方針	対象	児童生徒	
	意図	確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り拓くための資質・能力を身につける	
	結果	児童生徒が社会に出たときに自立できる	
指標	成果指標①	「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	
	成果指標②	「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	
	成果指標③	「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	意見なし	(成果指標案) ・授業に興味を持っていますか。 ・先生に対して「興味を持つ授業ができた」と答える先生の割合」等の成果指標を作る。
	②成果指標	・自己肯定感を測る成果指標なのか。(中学校は学力評価が多い。)	(成果指標案) ・個性を出していますか。 ・人の良いことを認められる。
	③成果指標	・朝食を食べるのは当たり前ではないのか。学校教育の分野なのか？子育て支援の分野では？	(成果指標案) ・目標値を90%ではなく、100%にするべきではないか。 (新たな視点) ・朝食よりも給食を食べられるように(給食の時間を長くする等)。 ・全町的に朝食を食べようとする取組を。
	その他	・(意図)確かな学力はなにを指すのか ・(成果指標)①～③だけでは足りない。 ・(成果指標①)授業がわかるの楽しく学んでいるのとは違う。	(成果指標案) ・人を尊重する心。 ・コミュニケーション能力。 ・授業内容が身についているか。 ・学力体力以外に個性を発揮できる指標を。 (新たな視点) ・成果指標について、全国一律の指標だけではなく、芽室町独自の指標も必要ではないか。 ・自分以外の人を認める、尊重することも必要ではないか。 ・地域の行事に参加していますか。地域の大人との交流。町内会の交流(もちつき等)。
担当課との協議		児童生徒を対象とした調査(アンケート)は「全国学力・学習状況調査」しかなく、調査の中で専門部会意見に馴染む設問がありませんでした。学力調査に併せて芽室町独自の設問を追加することも検討しましたが、学校現場の負担にも繋がることから見送りとしました。	

2-2-1 地域文化の振興

2班

方針	対象	町民	
	意図	文化・芸術を身近に感じさせる地域づくり	
	結果	心豊かに暮らせるまち	
指標	成果指標①	文化活動がしやすいと感じる町民の割合	
	成果指標②	地域文化活動への参加者数	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	①の指標に対して②の数値が低い（社会教育課調べ以外でも調べたら良い）	文化活動の範囲を例示できないか？
	②成果指標	「地域文化活動」の定義や範囲が見て取れない	「地域文化活動」の範囲を例示する。 町民活動支援センター登録団体の活動も確認。 文化展を見に行くのも文化活動への参加？
	その他	意見なし	成果指標②の「地域文化活動」と施策名の「文化活動」は別の意味なのか？
担当課との協議		施策名の「文化活動」と成果指標②の「地域文化活動」は同義であることから、「文化活動」に統一する予定。	

3-2-1 安心して生み育てることができる子育て支援

1班

方針	対象	町民	
	意図	妊娠、出産及び子育てに対する不安や悩みを解消する 子育てに対する地域社会の理解を深める	
	結果	子育ての支援体制が充実し、安心して生み育てることができる	
指標	成果指標①	育児が楽しいと感じる親の割合	
	成果指標②	安心して子育てができる環境であると思う町民の割合	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	・育児が楽しくないとダメなの？と問われているように感じてしまう。 ・楽しいだとプレッシャー。表現を変えた方がよいのか。 ・子育ては楽しくて当たり前なのか。 ・楽しい＝不安、悩みを解消できる環境を指すのではないか。	(成果指標案) ・育児を楽しんでいる時がありますか。 ・子育てを助けてもらっていますか。 ・気軽に助けてと言える人がいますか。
	②成果指標	・安心もアバウトすぎる。何の分野に関してかわからない。 ・町外の方が芽室町の子育てに関する良さを知ってる	(成果指標案) ・支援体制について、知っていますか。 ・相談できる場所、人がいますか。
	その他	意見なし	(新たな視点) ・ご近所との関係を密に。たくさんの人と関わって育ってほしいから。 ・多世代が会える、集まれる機会があればよい。 ・子ども会、老人会が一緒にならないか。 ・昔は近所の人に子どもを預けて用事を足しにいった。今はそういう人間関係ができていないのではないか。 ・情報発信の方法として、育児冊子は紙媒体が必要ではないか。 ・子育て部署があいあい21から役場に移ったことにより、子育ての拠点から役場の一部になってしまい、行きにくいと感じる。 ・成果指標に願いをのせる(具体的な指摘ではないが) ・縦割りではなく、(子育て部署以外との共通した)横断的な成果指標があるとよいのでは。
担当課との協議		成果指標を次のとおり追加予定→「育児・家事に協力してくれる方はいますか。(乳幼児健診時アンケート)」	
		成果指標追加案「子育て支援体制について、知っていますか。」については、母子手帳交付等の際に窓口にて子育て支援体制の説明を行っていることから、見送りとしました。	

3-3-1 地域で支え合う福祉社会の実現

2班

方針	対象	町民	
	意図	住民同士で支え合う体制をつくる	
	結果	住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる	
指標	成果指標①	ボランティア活動に参加した町民の割合	
	成果指標②	たすけあい活動参加町内会（市街地）・行政区（農村部）数	
	成果指標③	住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	ボランティア活動と認識せず活動する人もいる。	「参加した」＋「参加したい」とする。 ※意識調査であり、実態調査ではないので
	②成果指標	意見なし	このままで良い
	③成果指標	意見なし	このままで良い
	その他	意見なし	①地域のためにボラ活動したい人の数を出すべき←増えていくことはいいこと
担当課との協議		成果指標①を「ボランティア活動に「参加した」または「参加したい」町民の割合」に変更予定。	

3-3-3 障がい者の自立支援と社会参加の促進

2班

方針	対象	障がい者・児	
	意図	社会復帰及び社会参加を促す	
	結果	安心と生きがいを持って生活できる	
指標	成果指標①	障がい者にとって暮らしやすいまちだと思う市民の割合	
	成果指標②	就労支援事業所から一般就労した方の人数（H31～R4累計）	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	本人と家族がどう思っているかが大事。把握が必要（担当課は知っていると思うが）	そのままでもいいが、障がいを持つ人、その家族を対象に、住みやすい町になっているかをきく指標も必要。
	②成果指標	一般就労＝自立ではない。 限定しているのに違和感がある。 ・自立の観点で、一般就労だけで良いのか ・本人の意識・考え方必要では ・限定的な指標になっている。 ・社会参加が一般就労だけになっている。	就労支援の項目だけなので、その年々の集計もわかるような表示必要
	その他	意見なし	意見なし
担当課との協議		一般就労以外において社会参加を評価する指標を検討しましたが、新たな成果指標の設定に繋がらず見送りとなりました。	

4-1-1 災害に強いまちづくりの推進

4班

方針	対象	町民、町	
	意図	災害の未然防止を図るとともに、災害時又は災害が発生するおそれがある時に、迅速かつ的確に対応	
	結果	住民の日常生活の安全・安心が確保される 災害時には被害が最小限になる	
指標	成果指標①	住んでいる地域の避難場所を知っている町民の割合	
	成果指標②	めむろ安心メール登録者数	
	成果指標③	一般住宅の耐震化率	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	災害後の安全・安心の確保が重要	非常電源や食料の備蓄状況を指標に用いては！
	②成果指標	ほしい情報と流される情報のズレの検証は？	個別端末は活かされたか（その場にいないと聞けない）？ 指標にLINEを入れる（有効だった）
	③成果指標	意見なし	意見なし
	その他	意見なし	デジタル社会の向けての4年間になるので、意識した指標を！
担当課との協議		成果指標を次のとおり追加予定→「家庭内備蓄を行っている町民の割合（住民意識調査）」	
		成果指標②を次のとおり変更予定→「めむろ安心メール、防災ラジオ、町公式LINEのうち、一つでも登録している町民の割合（住民意識調査）」	

4-1-4 消費者の安全・安心の確保

4班

方針	対象	町民	
	意図	消費者の被害防止及び食の安全・安心の確保	
	結果	町民が安全で安心して暮らせる日常生活の確保	
指標	成果指標①	安心して消費生活が送れると思う町民の割合	
	成果指標②		
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	・アンケートの質問内容が漠然としていて、「消費者の被害防止」「食の安全・安心」がリンクしない ・住民意識調査が成果説明となるには範囲が広すぎるのではないか ・アンケートの質問が答えづらい形である。 ・（施策の方針では、消費者の被害防止及び食の安全・安心の確保を意図しているので）消費者被害防止、食の安全・安心の確保と分離した成果目標が必要では。	・アンケートを変える、精査する。 ・アンケートを「食の安全」と「消費生活」に分けた内容に変える。
	その他	・近頃アンケートが多い。⇒アンケートでかわるのか。何を聞きたいのか。 ・4年間同じテーマで走り続けていていいのか	・他の町村も同じアンケートをして、他の町村と比較してみる。
担当課との協議		成果指標①を次のとおり変更予定→「消費者被害に関する相談窓口（芽室消費者協会）について、知っていますか。（住民意識調査）」	
		成果指標を次のとおり追加予定→「日常生活において、食品の遺伝子組み換えや食品添加物を意識していますか。（住民意識調査）」	

4-2-2 快適な住環境の整備

3班

方針	対象	町内の住環境	
	意図	快適で安全・安心な住環境を町民に提供する	
	結果	町の人口減少の抑制と、居住者の快適な暮らし	
指標	成果指標①	芽室町の公園に満足している町民の割合	
	成果指標②	居住環境に満足している町民の割合	
	成果指標③	公共用地売却地への住宅建設の割合	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	「公園に満足」とは？設問自体がナゾ	利用頻度で調べる→「公園をよく使いますか？」
	②成果指標	設問の「居住環境」が広すぎる、市街地と農村部では大きく異なる。	どの居住環境か、より絞った指標がわかりやすい？
	③成果指標	政策の「快適な」というより、人口減に対する指標では？ 指標として、ピンとこない	売却が進まないのであれば、公用物件の移転・売却までを一つの課で！
	その他	意見なし	②の改善策として、「ゴミ収集の満足度」の案あり
担当課との協議		成果指標の変更などに繋がらず、ご意見としてお受けしました。	

5-1-1 徹底した情報共有と町民参加の促進

4班

方針	対象	町民	
	意図	町民と行政との情報共有を行い、まちづくりに自発的に参加してもらう	
	結果	町民のまちづくりへの参加意識を高め、町民が主役となったまちづくりを進める	
指標	成果指標①	行政情報の公開や説明責任が果たされていると思う割合	
	成果指標②	町ホームページのサイトへの訪問者数の数（セッション数）	
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	・住民意識調査の回答率（の低さ）を考えたら成果指標に持っていくのはいかなものか。住民意識調査に参加していない人がHPにアクセスしているかも。	・回答率を指標にしてみたら
	②成果指標	・コロナのような災害時にはHP閲覧が多くなる。これを指標としていいのか ・町民が主役⇒役場の目線ではないのか、言葉だけではないのか	意見なし
	その他	・情報の発信量ではなく、受け取ったのか ・何をもって（まちづくりに）参加したとするのか ・参加する意識づけのために、役場どんどん発信した方がいい ・アンケートの回収率が低い ・HPわかりにくい。町民は情報にたどりつかない。 ・町民1人ひとりほしい情報がちがう。それに対応するのにたくさん情報発信が必要。	・情報の出し方を町民の目線で ・タイムリーかどうか ・HP、LINEのアクセス数と広報への情報開示方法（具体的に分かりやすく）する。
担当課との協議		成果指標を次のとおり追加予定「行政からの情報発信方法（ホームページ、FaceBook、町公式LINEなど）が充実していると思う町民の割合（住民意識調査）」	

5-1-3 国際・地域間交流の推進

4班

方針	対象	町民・交流都市の住民	
	意図	友好都市との交流に参加し、異なる文化に触れ、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる	
	結果	交流を通じたさまざまな視点と情報の連携によるまちづくりをすすめる	
指標	成果指標①	他都市（トレーシー市・広尾町・揖斐川町）との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	
	成果指標②		
GW 結果	指標	問題点	改善点
	①成果指標	交流・連携の事実を「知っている」「知らない」でいいのか？	改善案に至らず
	その他	意見なし	意見なし
担当課との協議		成果指標の変更などに繋がらず、ご意見としてお受けしました。	